

SHIRAKOBATO

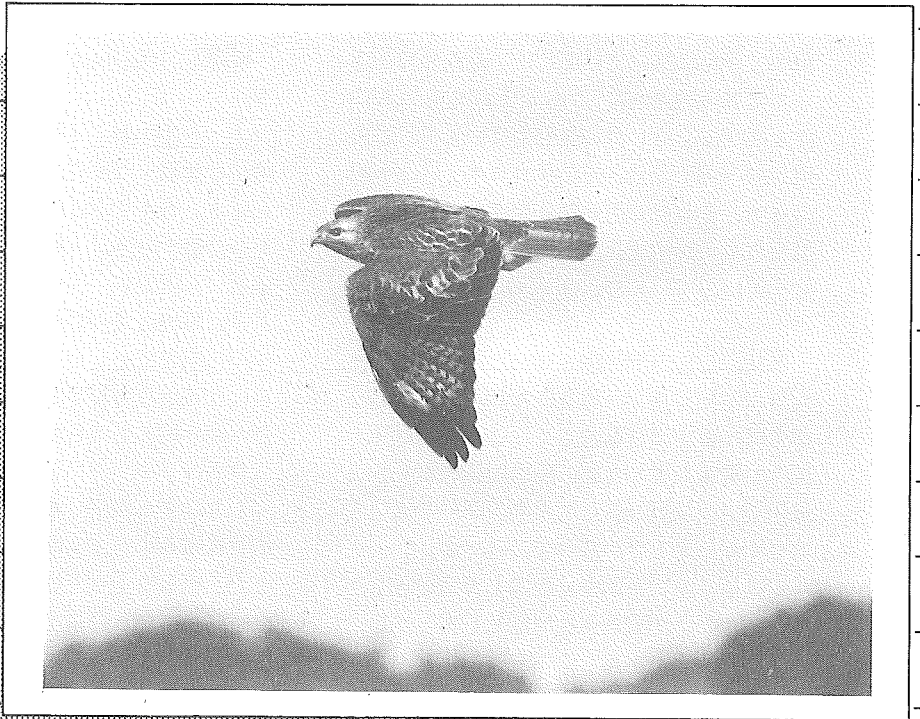
しらこぼと



1994. 3

SOCIETY OF JAPAN · SAITAMA

WILD BIRD



NO. 119

日本野鳥の会埼玉県支部

私の探鳥録昨今

探鳥会開催地のように野鳥が集まる場所をフィールドにされている方もおられるでしょうが私の場合は、現在住む春日部という大都市近郊の住宅地周辺という極々ありふれたところになります。永年やっているとして色々な鳥に親しむことができます。

野鳥を通して埼玉と係わり始めたのは、鳥を趣味にするようになった昭和42年の春でした。大学の同好会行事の一つに野田の鷺山と越谷のシラコバト生息地を結んで毎年春に開催していた探鳥会に参加してからです。

前者は当時まだ国の天然記念物で、鬱蒼と茂る農家の屋敷林の樹上で営巣するコサギ・アマサギ・チュウサギ・ダイサギ・ゴイサギの5種が飛び交う様子は、野鳥を始めたばかりの者には素晴らしい感動でした。

そして東武バスに乗り北越谷へ。そこで初めてシラコバト・キジバト・モズ・ムクドリなどの留鳥を身近に認識するようになりました。おまけにカッコウが屋敷林の大きな樫の頂部で盛んに鳴いていました。高原の鳥と思っていましたから、こんな平野でもいるのか！とびっくりしたのを覚えています。農業用水の岸辺でじっと佇むササゴイ1羽。小雨降る中、1m位の目を人を恐れず姿を見せてくれたヒクイナ2羽。彼等も記憶に鮮明に残る思い出の鳥です。

現在地春日部に移って21年弱。越してきた年（昭和48年）の初夏には自宅から農家の樫で鳴くカッコウを眺めて、これまた感激。翌年も飛来しましたが、長く居着かずそれ以来自宅周辺地域（春日部市南西部）では見られなくなりました。残念なことです。

時は移り水田が広がる当地も人口が増え、少しずつ田畑が埋められ屋敷林も切られていきます。住宅が増え、小中学校が建ち、道路が新設され、用水は草木の生える土手からコンクリート岸に変わり、近郊農村風景は大きく様変わり。それでも鳥達は相変わらず季節を感じさせてくれます。

これまで現住地（増田新田）を中心に東～北側（A地区：中野・谷原新田）及び西～西南側（B地区：岩槻市増長・大口・大谷・大

戸・越谷市恩間新田）をフィールドとしてきました（3ページ、上図参照）。この地域は所謂探鳥地として挙げるほど一時に観察できる鳥の種類は多くありません。どこにでも見られる都市近郊の生物環境です。水田に点在する休耕地に葦や蒲が繁茂し農業用水路が交錯し、A・B両地区周辺を農家の屋敷林が縁取るように存在しています。B地区は広大な水田地帯で遠くまで見通せます。近年A地区では水田が将来の運動公園予定地として市に買い上げられ、2～3年経過した現在、葦と蒲が広がる湿地と化し野鳥生息場所を提供しています。

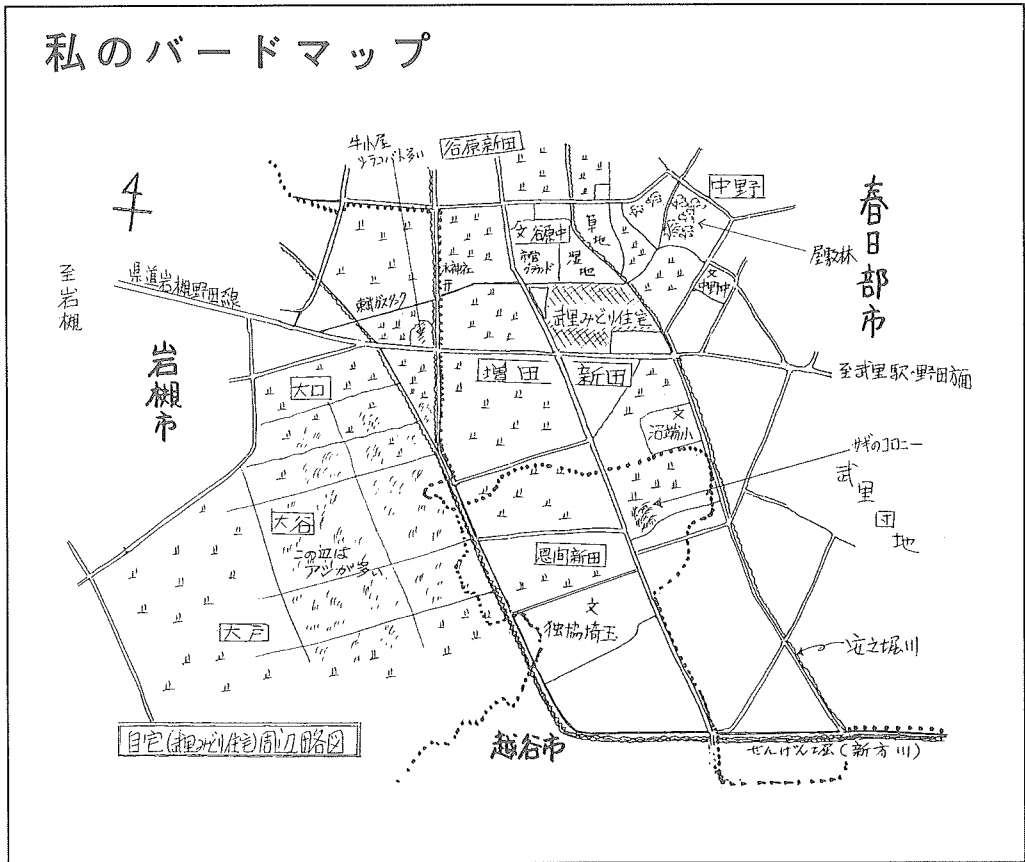
印象に残る鳥をいくつか挙げてみましょう。

シギ・チ類：春も4月下旬になると両地区には一大湿地、つまり田植前の代掻き田が出現します。考えてみると特に水鳥達にとっては渡りの途中の休息・腹捲えするのに格好の環境という訳です。次々と小群で飛来するムナグロ、冬羽と夏羽の混群がピュイピュイピュイ…と鳴き交わしつつ代掻き田に降り立つようになると春もたけなわ。水面に映る逆さ姿は一幅の絵にもなりえます。

タカブシギ・キアシシギ・タシギ・チュウシャクシギも飛来します。まれにムナグロの群れにキョウジョシギが混じることもありました。チュウシャクは群を作ってB地区（主に大谷・大口）に飛来、ムナグロ同様春しか見られません。これは春と秋では水田環境が大きく異なることに因ると思われれます。コチドリはどこかで繁殖するようです。

葦原や水田の鳥：シギ・チが去って初夏を迎えると葦や蒲は人丈以上に伸長し、その葉先でオオヨシキリが盛んに赤い口を大きく開けて囀ります。A地区では葦が増えた為昨夏は

私のバードマップ



数も多いうるさい位で、みどり住宅地北側では人家の庭木がソングポストにもなるほどでした。葦の下陰では何時頃やってきたのかバンやヒクイナが時折姿を見せます。もっともヒクイナは警戒心が強く少しでも人の気配がすると葦の中に隠れてしまいます。バンはよく幼鳥を連れ歩く光景を目にしますが、針のような黒毛を纏った幼鳥の格好は、親鳥と違って変ってアンバランスでユーモラスでもあります。近年話題となりすっかり有名になったカルガモも住宅地に近いA地区で毎年繁殖します。葦の中の用水路、それもコンクリ壁の水路で親鳥と共に雛が泳ぐのを見ます。どうしてこんな所に入り込むか不思議です。外敵にやられても2~3羽は成長するようで、昨夏は若鳥が私の家の前の道路にまで進出してきました。今までなかった事です。

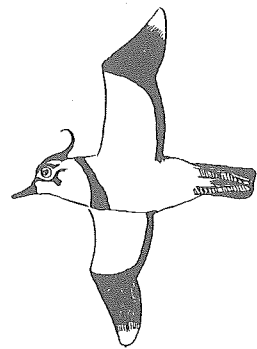
ケリは当地では夏鳥。B地区の大谷・大戸の葦原に接する休耕田で見かけました。一夏を越して秋に2羽確認しましたので繁殖した

と思われま。数年前のことでした。

サギのコロニー：以前は春日部市街にありましたが、現在はB地区・恩間新田の農家の竹林に移っておりコ・チュウ・ダイ・ゴイの4サギが多数繁殖します。

まだまだ挙げてみたい鳥がいるのですが、紙数がありません。機会があればまた春日部周辺の鳥を紹介したいと思います。なお、私の住む平凡な環境でも蓄積してみると70余種の野鳥目撃記録となります。皆さんも是非身近な所でウォッチングを続けてみて下さい。

(石川敏男)



(黒田 佳子)

1993年秋 埼玉県のタカの渡り

日本野鳥の会埼玉県支部研究部

はじめに

1993年9月26日(日)、県内5ヶ所(表1)でサシバを中心とする秋のタカの渡り調査が行なわれました。移動性の高気圧が西から張り出しおだやかな快晴の天気となりました。

当日のタカの渡り調査結果

本年は去年同様、県内のタカの渡りの主要ルートである丘陵地帯と低山地帯の境界周辺、JR八高線の周辺に北から南まで5ヶ所、観察地を設定し調査を行ないました。9月下旬によい天気が続いたためか、夏の不順な天気のためか、例年に比べ(表3)快晴にしては当日の観察数が少なかった(表2)と思われる。

おわりに

調査当日、50余名もの会員の皆様のご協力を得た事を感謝致します。

(執筆 小荷田行男)

ハヤブサ

・ワシタカ目
ハヤブサ科
全長83cm
♀51cm

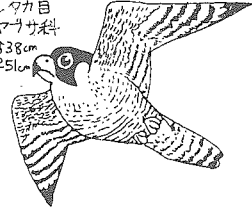


表1 調査地と調査時間

調査地	市町村名	調査者名	調査時間
鐘撞堂山	寄居町	森本國夫他	7:30' ~13:00'
堂平山	都幾川村	小荷田行男他	7:53' ~13:00'
物見山	東松山市 鳩山町	柳原正昭他	9:00' ~12:00'
天覧山	飯能市	三田長久他	7:00' ~15:00'
堀之内	所沢市	登坂久雄他	8:00' ~12:00'

表2 渡りのタカ類のカウント数

調査地	ミサゴ	ハチクマ	トビ	オオタカ	ツミ	ハイタカ	ノスリ	サシバ	ハヤブサ	タカSP
鐘撞堂山	0	2	0	2	1	0	1	19	0	1
堂平山	1	1	1	1(2)	0	1	3	45	1	1
物見山	0	0	(1)	0	0	0	0	3	0	0
天覧山	0	0	(2)	(2)	(1)	(4)	3	73	0	0
堀之内	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
合計	1	3	1(3)	3(4)	1(1)	1(4)	7	140	1	2

(注) ただし () は渡りでないと思われる個体数

表3 タカの渡りの本調査日におけるサシバの数

年	調査地 月/日	天気	金鑽神社	鐘撞堂山	堂平山	物見山	白金平	高指山	天覧山	堀之内
1986	10/5	はれ	-	6 (9/23 31)	-	-	-	52	-	-
1987	10/4	快晴	-	4 (9/23 31)	-	28	(10/3 6)	149	-	-
1988	10/2	くもり	-	10 (10/1 150)	-	19	0	1	-	-
1989	10/1	はれ	-	25 (9/23 105)	-	100	14	79	150	-
1990	10/10	快晴	1	- (9/23 19)	-	-	-	-	2	-
1991	9/29	はれのちくもり	13	34	-	29	-	21	151	-
1992	9/27	快晴	7	21	6	10	-	-	31	17
1993	9/26	快晴	-	19	45	3	-	-	73	0

(注1) 1990年のデータは本調査日が悪天候のため10/10のデータを示した。

(注2) カッコ内は当年度における最大値とその観察日を示す。

地鳴きコーナー

ウトナイ湖サンクチュアリ ネイチャー・センター 冬のボランティア・ワークショップ 体験レポート 赤松康夫 (朝霞市)

1月2日から4泊5日の日程で始まったボランティア・ワークショップには、全国各地から5人の学生と、さまざまな職業の6人の社会人が集まった。すべて自炊なので、食事当番を決めた後、午後2時から勉強会が始まった。大畑チーフレンジャーの「日本野鳥の会とウトナイ湖サンクチュアリの活動」の説明。原田レンジャーのハクチョウについてのディスカッション形式のセミナー。そしてミーティング、夕食。その後また勉強会。これが白熱して夜11時半ころまで。初日から長い1日だった。

1月3日。9時から村井レンジャーによるネイチャートレイルガイド。サンクチュアリ内を歩きながらの観察会が行われた。

昼食後、いよいよ展示物作成の作業開始。つぎの4つのグループに分かれた。

- ①ハクチョウすごろく
- ②ハクチョウ生息環境パネル (パズル形式)
- ③ハクチョウ解説紙芝居
- ④ハクチョウ重さ体験 (実物大、同じ重さのぬいぐるみ作成)

私はすごろく班。ただ、おもしろおかしいだけではダメ。すべて事実に基づいていなければならないので、レンジャーに教えてもらったり、資料を調べたりと、なかなか手がかかった。

作業の合間に湖の水割りやハクチョウへの給餌をしたり、毎晩遅くまで勉強会があったりで、とても忙しい。皆、はりきっているので、ふまじめな私だけがサボっているわけにはいかない。

この夜は、大畑レンジャーの「ウトナイの自然保護」についての勉強会。また長い1日が終わった。

1月4日。この日と翌日は休館日なので、一般の来訪者は来ない。だからこの2日間は作業に集中することができた。夜の勉強会の後の懇親会はおおいに盛り上がり、寝たのは深夜3時近かったと思う。

1月5日。夜の勉強会は、村井さんのナイ

ト・ハイク。夜9時頃の気温は-14℃くらいだが、風がないのでそれほど寒くは感じられなかった。むしろ、さわやかですがすがしく、星の美しさに見とれてしまった。

最終日の1月6日。最高気温-4℃で、外は寒かったが、すごろく班の作業も午後5時頃には終わり、6時には帰路についたのだ。

宮見百穴周辺探鳥会の感想

鈴木祐介 (鴻巣市 小5)

1月16日は、穏やかな天気恵まれて、探鳥会が開かれました。開会式の前にノスリが飛んでいました。が、あまり遠いので、はっきり形がわからなかった。ぼくの好きな種類なので、近くで見たら感動したと思った。

9時50分に開会式が終了探鳥会が始まり、ぼくの目の前にどんなすばらしい鳥達が心を感動させるか楽しみです。

まず初めに見たのはやはりスズメだった。ぼくは探鳥会は今日で2回目だけど、前回の古墳公園の探鳥会の時も初めはスズメでした。次になんともいえないのはジョウビタキのおすでした。ジョウビタキのはらがかきの実のようで、きれいな鳥でした。ぼくの家にも庭があって、ヒヨドリ、メジロ、キジバトなどが来るけれど、ジョウビタキは見たことがなかったので、印象が深かった。

急に寒くなってきた。目の前に大沼があらわれると、たくさんのカモ類が湖面で遊んでいた。千羽以上いると聞いていましたが、ほんとうにたくさんいるなあと思いました。だけどカモ類の見わけがぼくにはまだつきません。マガモがわかるくらいです。カワウやバンなど、めずらしい鳥も見ることができました。

最後にタゲリをスコープで見せてもらいました。なかなか強そうな顔が、とても印象的でした。吉見ではタゲリが名物だと、リーダーの人が言いましたが、今はへっているそうです。

帰り道、ぼくは思った。今は自然のことをなんとも思っていないことは、とんでもないことだと思った。ぼくは鳥達に住みよい環境作りに、ぼく一人でも努力しようと思った。

ハジロカイツブリ ◇10月10日、戸田市道満荒川第一調節池で夏羽1羽、冬羽1羽(駒崎政雄)。
 カンムリカイツブリ ◇11月19日、本庄市の阪東大橋下流で2羽(井上幹男)。
 コハクチョウ ◇11月6日、川本町の押切橋上流の荒川で23羽(佐藤進)。◇11月9日、本庄市の阪東大橋下流で7羽(小野沢満)。
 トモエガモ ◇10月9日、戸田市道満荒川第一調節池で1羽(駒崎政雄)。
 ヨシガモ ◇10月10日、戸田市道満荒川第一調節池で9羽(駒崎政雄)。◇11月21日、本庄市の阪東大橋下流で♂3羽(井上幹男)。◇11月24日、戸田市の戸田橋付近の荒川河川敷で♂1羽(高橋達也)。
 アメリカヒドリ ◇11月16日、戸田市道満荒川第一調節池で♂1羽(高橋達也)。
 スズガモ ◇10月16日、戸田市道満荒川第一調節池で♂2羽♀1羽(駒崎政雄)。
 カワアイサ ◇11月9日、本庄市の阪東大橋下流で♀1羽(井上幹男)。
 ミサゴ ◇10月3日、戸田市道満荒川第一調節池で1羽(駒崎政雄)。
 オオタカ ◇10月3日、戸田市道満荒川第一調節池で成鳥1羽、若鳥1羽(駒崎政雄)。◇11月25日、大宮市日進1丁目で1羽。ゆったりと帆翔しながら北の方へ飛び去った(森本國夫)。
 サシバ ◇10月2日、富士見市の新河岸川、新河岸橋上空で1羽。カラスたちにモピン

グされて西方に飛び去る(中司隆由)。◇10月3日、戸田市道満荒川第一調節池で1羽(駒崎政雄)。

ハイロチュウヒ ◇10月31日、戸田市道満荒川第一調節池で♀1羽(駒崎政雄)。◇11月4日、本庄市の阪東大橋下流で♀1羽(井上幹男)。

チュウヒ ◇10月2日、戸田市道満荒川第一調節池で♀1羽(駒崎政雄)。◇11月4日、本庄市の阪東大橋下流で♀1羽(井上幹男)。◇11月30日、上尾市原市沼上空で1羽(森永徳一)。

ハヤブサ ◇10月31日、戸田市道満荒川第一調節池で成鳥1羽(駒崎政雄)。◇11月4日、本庄市の阪東大橋下流で1羽(井上幹男)。

コチョウゲンボウ ◇10月23日、戸田市道満の釣り堀前上空で♀1羽(駒崎政雄)。

チョウゲンボウ ◇11月30日、上尾市原市沼上空で1羽(森永徳一)。

ムナグロ ◇10月24日、戸田市道満荒川第一調節池で2羽(駒崎政雄)。

タゲリ ◇11月30日、上尾市原市沼の田んぼで8羽(森永徳一)。

オジロトウネン ◇11月30日、上尾市原市沼で1羽(森永徳一)。

ウズラシギ ◇11月4日、本庄市の阪東大橋下流で1羽(井上幹男)。

ハマシギ ◇10月31日、戸田市道満荒川第一調節池で1羽。水面に降りて泳いでいた(駒崎政雄)。◇11月5日、川越市の伊佐沼で55羽(中司隆由)。◇11月20日、志木市の柳瀬川、高橋～栄橋間で70羽(中村治)。

ツルシギ ◇10月10日、戸田市道満荒川第一調節池で1羽(駒崎政雄)。

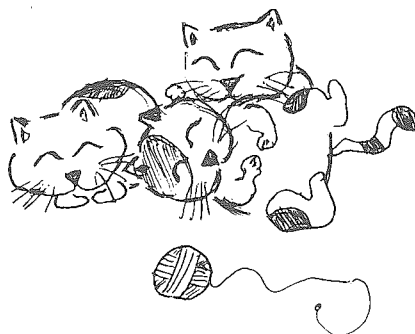
クサシギ ◇11月14日、志木市の柳瀬川、高橋～栄橋間で1羽(中村治)。

アオアシシギ ◇10月31日、戸田市道満荒川第一調節池で2羽(駒崎政雄)。

セグロカモメ ◇10月16日、戸田市道満荒川第一調節池で1羽(駒崎政雄)。

アジサシ ◇10月16日、戸田市道満荒川第一調節池で若鳥1羽(駒崎政雄)。

ツツドリ ◇10月5日～6日、大宮市日進1丁目で2羽(森本國夫)。◇10月9日、戸



(田中美智子)

田市道満荒川第一調節池で若鳥1羽(駒崎政雄)。
 ホトトギス ◇9月26日、飯能市市民会館裏の林で1羽(藤森三治・恵美子)。
 コミミズク ◇10月24日、戸田市道満荒川第一調節池で2羽(駒崎政雄)。
 アマツバメ ◇10月9日、戸田市道満荒川第一調節池で30羽(駒崎政雄)。
 ヤマセミ ◇11月18日、飯能市下畑の成木川で1羽(藤森三治・恵美子)。
 ショウドウツバメ ◇10月10日、戸田市道満荒川第一調節池で24羽(駒崎政雄)。
 ビンズイ ◇10月11日、戸田市道満荒川第一調節池で4羽(駒崎政雄)。◇10月29日、大宮市日進1丁目で2羽(森本國夫)。
 モズ(高鳴き) ◇9月19日、飯能市の浄化センター周辺で(藤森三治・恵美子)。
 カヤクグリ ◇11月23日、寄居町の鐘撞堂山で1羽(田口浩司)。
 ルリビタキ ◇11月23日、寄居町の鐘撞堂山で♂2羽♀1羽(田口浩司)。
 エナガ ◇11月23日、寄居町の鐘撞堂山で約20羽(田口浩司)。
 シロハラ ◇11月27日、戸田市道満の釣り堀横の林で1羽(高橋達也)。
 メボソムシクイ ◇10月9日、戸田市道満で1羽(駒崎政雄)。
 キビタキ ◇10月16日、戸田市道満で♀1羽(駒崎政雄)。
 サメビタキ ◇10月2日、戸田市道満の釣り堀横の林で1羽(駒崎政雄)。
 コサメビタキ ◇10月2日、戸田市道満の釣り堀横の林で1羽(駒崎政雄)。
 コジュリン ◇11月20日、富士見市水子の柳瀬川左岸のアシ原で1羽(中村治他2名)。
 ホオアカ ◇11月3日、富士見市水子の柳瀬川左岸のアシ原で♀1羽(中村治)。

ミヤマホオジロ ◇11月6日、川本町の押切橋上流、荒川の南側河川敷内の雑木林で4羽(佐藤進)。◇11月23日、北本市石戸宿の自然観察公園で♂1羽。草の実をしきりについばんでいた(新堂克浩)。◇11月26日、秩父市の羊山公園で1羽(山岸昭治)。
 オオジュリン ◇11月30日、上尾市原市沼のアシ原で1羽(森永徳一)。
 ベニマシコ ◇11月2日、富士見市水子の柳瀬川左岸のアシ原で♀1羽(中村治)。3日には、♂1羽(中村治、渡辺敦、神場真文、黒田佳子他2名)。◇11月4日、深谷市の上武大橋下流で♀1羽(井上幹男)。
 ウソ ◇11月23日、寄居町の鐘撞堂山で鳴き声を聞く(田口浩司)。
 イカル ◇11月30日、飯能市下畑の成木川付近で約20羽(藤森三治・恵美子)。◇12月1日、幸手市外国府間の権現堂の中川で2羽(田畑孝)。
 カケス ◇10月10日、戸田市道満の釣り堀横の林で3羽(駒崎政雄)。◇11月20日、富士見市水子の水谷東小学校上空を北へ向かって飛ぶ(中村治)。

■「ごめんなさいコーナー」■

前月号『野鳥情報』中、7ページの「エリマキシギ、10月23日志木市柳瀬川高橋～栄橋間で9羽(中村治、渡辺敦)」とあるのは、「ハマシギ9羽(今季初)」の誤りでした。

同じページの「クサシギ、10月20日杉戸町大島新田貯水池で14羽(秋間利夫)」とあるのは、「2羽」の誤りでした。14羽というのは、同日同所で観察されたアオアシシギの数です。おわびして訂正します。

表紙の写真

ネイチャーフォトコンテスト 1993 入選作

ノスリ (ワシタカ科)

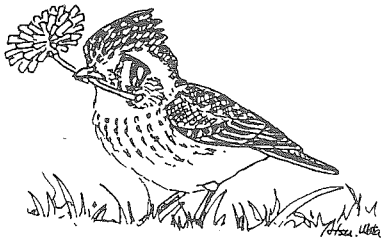
ノスリは、くちばしだけは猛禽類らしいが、つぶらな瞳がとても愛らしい。

杭にとまっているところを見ていたら、ふ

わっと飛翔し、何かご用とばかりにふりむいた。

金子博子 (板橋区)

行事あんない



(渡辺 敦)

北川辺町・渡良瀬遊水池探鳥会

期日：3月12日(土)

集合：午前9時10分 東武日光線柳生駅前

交通：JR宇都宮線大宮8:01発→栗橋8:30着

東武日光線乗換8:52発→柳生9:02着

担当：中島、松井、吉原、五十嵐、入山、篠原(五)、山岡

見どころ：春の渡良瀬はカモの仲間がいっぱい。数も種類も豊富で一万羽以上が池に飛来しています。今回はいつものコースを変更して、貯水池をゆっくり、カモ類の観察を中心に回ります。

熊谷市・大麻生定例探鳥会

期日：3月13日(日)

集合：午前9時30分 秩父鉄道大麻生駅前

交通：秩父鉄道熊谷9:11発、または寄居9:03発に乘車

担当：菱沼(一)、関口、菱沼(洋)、斉藤、塚本、中島(章)、小池、和田、石井(博)

見どころ：さようならコハクチョウ。遠い生まれ故郷を目指して、さあ出発！11月には新しい家族をつれて再び飛来してくれることでしょう。皆で長旅の無事を祈りましょう。

川越市・西川越探鳥会

期日：3月13日(日)

集合：午前9時 JR川越線西川越駅前

交通：JR川越線大宮8:34発に乘車

探鳥会への参加は、特別な場合を除いて予約申込みの必要はありません。受付は探鳥会当日。参加費は一般100円。会員及び中学生以下50円。持ち物は、筆記用具、雨具、昼食、ゴミ袋、もしあれば双眼鏡など。小雨決行です。解散時刻は、特に記載のない場合、正午から午後1時ごろになります。

◇はじめて探鳥会に参加される方へ◇

集合場所へ着いたら、まず“日本野鳥の会埼玉県支部”の旗か、青い腕章をつけた担当者を探して、遠慮なく声をおかけ下さい。私達もあなたを探していますので、ご心配なく。

担当：佐久間、長谷部、石井、三田、柳原、小野、山本、中村(祐)、池永

見どころ：春の訪れとともにカモ達は求愛ディスプレイをするもの、めでたくカップルになったもの等いろいろです。小鳥達のさえずりも盛んになってきています。春をいっぱい感じに来ませんか。

浦和市・三室地区定例探鳥会

期日：3月20日(日)

集合：午前8時15分 京浜東北線北浦和駅東口(集合後、バスで現地へ)

午前9時 浦和市立郷土博物館前

後援：浦和市立郷土博物館

担当：楠見、福井、渡辺(周)、岡部、倉林

見どころ：冬鳥、夏鳥の交差する季節！・・ツバメの初認、カモ達への別れ、花はレンギョウ、モモ、ユキヤナギ、オオイヌノフグリ、ヒメオドリコソウ・・春の三室はすばらしい！



(タゲリ 外園たけの)

秩父市・羊山公園探鳥会

期日：3月21日（月・祝）

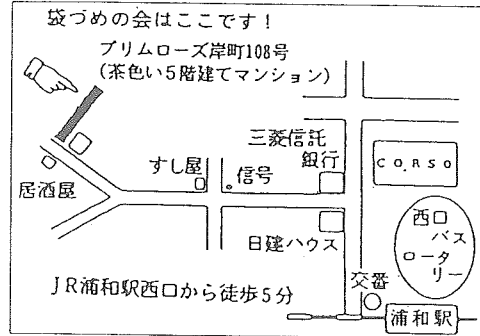
集合：午前9時40分 西武線西武秩父駅前

交通：秩父鉄道熊谷8:23発に乗車、御花畑下車、徒歩5分／西武秩父線所沢8:06発快速急行に乗車

担当：海老原、福井、佐久間、菱沼（一）、小池

見どころ：赤い鳥・青い鳥・黄色い鳥たちに今年も会えるか。この探鳥地は実におもしろい。列の後ろのほうの人が見えても、前の人には見えなかったり、運の良し悪しがはっきりする。あなたはどっちかな。

す。木戸銭不要、小屋主代理は“満員御礼”の札を用意しているようなのですが、十分に空席はあります。乞うご来場。



浦和市・見沼ヘルシーロード探鳥会

期日：3月26日（土）

集合：午前9時 大崎事業所裏の芝生グラウンド

交通：JR浦和駅西口1番バス乗場より、大崎園芸植物園行き8:18発、またはさぎ山記念公園行き8:32発に乗車、大崎園芸植物園下車

担当：伊藤、楠見、草間、笠原、桜庭、新堂、高松、渡辺（光）

見どころ：桜もちらほら咲き始める頃、春いっぱいの見沼田圃とその周辺をゆっくり歩きます。高らかに歌うヒバリ、南からの使者ツバメたちとも初顔合わせです。楽しみにしてお出かけ下さい。

狭山市・入間川定例探鳥会

期日：3月27日（日）

集合：午前9時 西武新宿線狭山市駅西口

交通：西武新宿線所沢8:45、本川越8:43発に乗車、JR川越線大宮駅からは川越駅下車、徒歩約10分で本川越駅へ。

解散：正午頃、稲荷山公園

担当：長谷部、三田、石井（幸）、佐久間、柳原、小野、中村（祐）、山本

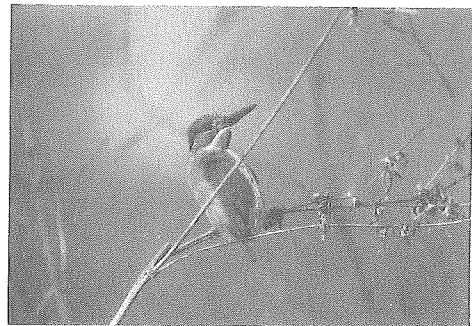
見どころ：入間川の川辺りもいつの間にか春の粧い。ヒバリがさえずり、ツバメが舞うのどかな季節です。こんな春の一日をのんびり楽しんでみませんか。

「しらこぼと」袋づめの会

とき：3月26日（土）午後1時～2時ごろ

会場：支部事務局 108号室

案内：花見にはまだちょっと早い、こんな昼下りにはこの会に参加して鳥仲間との交流の輪を広げては如何ですか。



（カワセミ 登坂久雄）

野鳥写真クラブ定例会

とき：3月26日（土）午後2時ごろ～5時

会場：「しらこぼと」袋づめの会と同じ

案内：パブルがはじめて製作から配給まで一人でがんばっているスライドやビデオの独立アマ作品があくまでも中心で

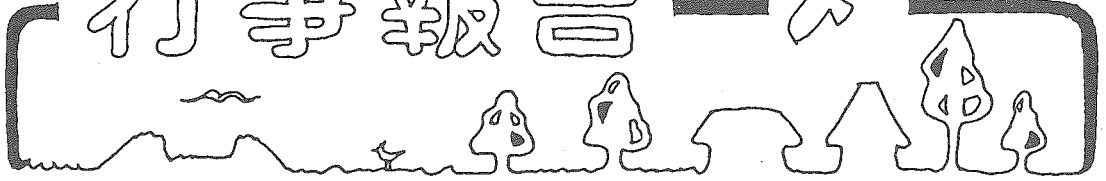
4月3日（日） 北本市・石戸宿定例探鳥会

川口市・差間探鳥会

4月10日（日） 熊谷市・大麻生探鳥会

4月17日（日） 浦和市・三室地区探鳥会

行事報告



8月22日 ワイワイガヤガヤVTRを楽しむ会
参加：27人 作品発表：5人

9月11日(土) 浦和市 秋ヶ瀬
参加：45人 天気：晴

カワウ ヨシゴイ ゴイサギ アマサギ ダイサギ チュウサギ コサギ カルガモ コガモ バン ムナグロ タシギ オオジシギ キジバト ツツドリ カワセミ コゲラ ヒバリ ツバメ ハクセキレイ ヒヨドリ モズ コヨシキリ オオヨシキリ セッカ シジュウカラ カワラヒワ スズメ ムクドリ オナガ ハシボソガラス (31種) 台風のおかげで、稲刈りが終わらず、期待外れ。サギの識別探鳥会となった。(福井恒人)

9月15日(水、休) シギ・チドリ類調査
ボランティア：24人

荒木恒夫、石井 智、海老原教子、海老原美夫、工藤洋三、久保田忠資、倉林宗太郎、佐久間博文、佐藤 進、佐藤晶人、竹内設雄、立岩恒久、登坂久雄、菰沢 有、橋口長和、福井恒人、福井 亘、柳原正昭、吉田晴芳、吉本富美子、若井和子、若井久美子、若井 悟、若井美菜子等々ご苦労様。

9月26日(日) タカの渡り調査
ボランティア：57人 天気：晴

荒木恒夫、飯塚俊一、伊藤幸子、伊藤征治、伊藤芳晴、海老原教子、海老原美夫、岡野 強、小淵健二、小出 博、久保田忠資、グレン・プリチャード、笠原伸子、小荷田行男、坂本照雄、坂本光子、桜庭 勇、佐藤 進、篠原東彦、下村貴美子、進藤 隆、関根秀行、中村俊彦、高松 格、田口浩司、立岩恒久、嶋田和江、千葉能亢、手塚正義、登坂久雄、ドナルド・ウング、中島郁夫、中島章二、中島康夫、中村榮男、根本一郎、根本京子、萩原信一、萩原光子、林 滋、福井恒人、福井 亘、藤森恵美子、藤森三治、逸見 嶮、増尾節子、増尾 隆、松井昭吾、森本國夫、柳原正昭、山影昭三、山下雅世、吉本富美子、吉安一彦、渡辺喜

八郎、渡辺孝雄、和田康男等々ご苦労様。

11月13日(土) 栃木県 奥日光
参加：47人 天気：雨

マガモ コガモ ヒドリガモ トビ ノスリ キジバト アカゲラ コゲラ ハクセキレイ セグロセキレイ ヒヨドリ モズ カワガラス ミソサザイ ツグミ エナガ コガラ ヒガラ シジュウカラ ゴジュウカラ キバシリ ホオジロ アオジ イカル スズメ カケス ハシボソガラス ハシブトガラス (28種) 日光への初めてのバスでの日帰りツアーということで、補助席まで埋まる盛況でした。しかし、あいにくの雨が一日中降り続き、鳥の方はさっぱり。何とかノスリが2羽現われて、じっくり見られたことが救いでした。他には、カワガラスやミソサザイが見られました。これにこりず、また参加して下さい。(中島康夫)

11月21日(日) 浦和市 三室地区
参加：26人 天気：雨

カワウ コサギ ダイサギ アオサギ カルガモ コガモ オナガガモ ホシハジロ キンクロハジロ バン コジュケイ タカブシギ ユリカモメ キジバト カワセミ コゲラ ヒバリ キセキレイ ハクセキレイ セグロセキレイ タヒバリ ヒヨドリ モズ ジョウビタキ ツグミ ウグイス シジュウカラ メジロ ホオジロ アオジ カワラヒワ シメ スズメ ムクドリ ハシボソガラス ハシブトガラス (36種) 6月に、天気続きの三室の探鳥会と言ってしまったら、雨の探鳥会が多くなってしまった。しかし雨の探鳥会もまた楽し！静かな雨の道に冬鳥の勢ぞろい。久しぶりに“カワセミ”出現でした。(楠見邦博)

11月27日(土) 『しらこぼと』袋詰めの会
ボランティア：16人

赤塚義正、荒木恒夫、石塚文雄、海老原教子、海老原美夫、角田真喜子、兼元義裕、工藤洋三、小林孝太郎、佐久間博文、佐藤信治、新堂克浩、墨

江光子、丹 茂子、内藤義雄、山岡百合子

11月28日(日) 長瀬町 長瀬

参加: 75人 天気: 晴

カイツブリ コサギ オシドリ カルガモ コガモ トビ オオタカ イカルチドリ イソシギ キジバト カワセミ コゲラ セグロセキレイ ピンズイ ヒヨドリ ジョウビタキ ツグミ エナガ シジュウカラ メジロ ホオジロ カシラダカ アオジ カワラヒワ イカル シメ スズメ ムクドリ ハシボソガラス ハシブトガラス (30種) 朝の挨拶を始めようとした時に、山の上に早くもオオタカが2羽。河原に下りてみると、オシドリたちが川の土手に休んでいた。カワセミ君は大勢の人のためか、ちょっとだけ岩の上に来て、飛んで行ってしまった。(佐久間博文)

11月28日(日) 蓮田市 黒浜沼

参加: 20人 天気: 晴

カイツブリ ダイサギ コサギ アオサギ カルガモ コガモ タゲリ キジバト コゲラ ヒバリ ハクセキレイ セグロセキレイ タヒバリ ヒヨドリ モズ ジョウビタキ ツグミ ウグイス シジュウカラ メジロ ホオジロ カシラダカ アオジ カワラヒワ シメ スズメ ムクドリ オナガ ハシボソガラス ハシブトガラス (30種) 久しぶりに国立療養所周辺の林を歩き、アオジ、コゲラ、カシラダカを十分に見られた。又、農家の庭先で柿の実を食べているメジロ、ツグミ、ヒヨドリを見ながら、深まりゆく秋を感じることができた。(中島康夫)

11月28日(日) 狭山市 入間川

参加: 20人 天気: 晴

カイツブリ カワウ コサギ カルガモ コガモ オカヨシガモ ヒドリガモ オナガガモ キンクロハジロ トビ コジュケイ イカルチドリ イソシギ ユリカモメ キジバト カワセミ アリスイ アオゲラ ヒバリ キセキレイ ハクセキレイ セグロセキレイ ピンズイ タヒバリ ヒヨドリ モズ ジョウビタキ ツグミ ウグイス セッカ エナガ シジュウカラ メジロ ホオジロ アオジ カワラヒワ シメ スズメ ムクドリ オナガ ハシブトガラス (41種) 探鳥会は、自然保護思想普及の一環で、現われた鳥の種類のみならず、多量に観察された鳥の種類も重要なわけではない。しかし、そうは

言ってもやっぱりたくさんの鳥が見たい。それもアイドル性の高いカワセミや声ばかりのコジュケイ、珍しいアリスイなんかが出てくれたら皆大喜び。さまざまな環境の中に生活する鳥たちの姿は、雄弁なリーダーが自然のすばらしさ、大切さを説くよりもはるかにたくさんを私たちに教えてくれるのではないだろうか。(長谷部謙二)

12月4~5日(土~日) 宮城県 伊豆沼

参加: 29人 天気: 晴、曇、雨

カイツブリ ハジロカイツブリ カワウ ダイサギ コサギ マガン オオハクチョウ コハクチョウ マガモ カルガモ コガモ ヒドリガモ オナガガモ ハシビロガモ ホシハジロ キンクロハジロ ホオジロガモ ミコアイサ カワアイサ トビ オオタカ ノスリ チュウヒ ハヤブサ コチョウゲンボウ チョウゲンボウ キジバン オオバン タゲリ サルハマシギ ユリカモメ キジバト コミミズク カワセミ ヒバリ ハクセキレイ セグロセキレイ ヒヨドリ モズ ジョウビタキ ツグミ ウグイス シジュウカラ ホオジロ カシラダカ アオジ オオジュリン カワラヒワ ベニマシコ シメ スズメ ムクドリ オナガ ハシボソガラス ハシブトガラス (56種) バスに揺られて5時間、伊豆沼に到着。その疲れも夕方に沼に帰る雁行を見て、どこへやら。翌日は、5時半に起きて、バスでガンを見に行く。朝日をバックにした数千羽のガンの飛び立ちのすばらしく美しい光景に、皆大感激。蕪栗沼では、周辺の田圃に降り立つ沢山のマガンを間近に見て、また大感激。伊豆沼はいつ来てもすばらしい所だ。(中島康夫)



(ヒヨドリ 海老原美夫)

連絡 中長

●海外カスミ網猟調査報告

12月号でカンパを呼びかけ、支部としても5万円を寄付した宮古支部長遠藤公男氏の調査結果報告が届きました。インドネシアAWB（アジア湿地事務局）と元海外青年協力隊員小林浩氏の案内で、遠藤氏と岐阜県支部長村井敏郎氏がジャワ島シガクルタ村で調査に当たり、夜の猟の様子などを生々しくレポート。

こんなことをしても何にもならないと思いつつも、1羽でも助けたいと、捕獲されたツバメチドリ45羽を買って放鳥する一幕もあり、夜の猟の翌朝、1人の仲買人が16人のハンターから、ツバメチドリ179羽など11種286羽を合計5,000円位で買い上げる様子を確認。1986年にはここに15人の仲買人がいたと報告されており、同村の副村長の話によれば、仕事がなくてしかたなく鳥を捕っているハンターは、二つの村を中心に約400人、毎朝の捕獲数は平均して1,000羽だろうという。インドネシアAWBによれば、ここだけで年間15万羽が捕獲されているとのこと。

カンパは合計775,000円に達し、村井氏が31万円を自己負担したので、差し引き34万円余が残ったが、引き続いて第3回の現地調査が計画されています。安全に車で現地入りできる事が分かり、3月21日～26日の日程で、ツアー参加者も募集しています。

●公民館主事研修会で講義

1月20日（木）本庄市旭公民館で、県教育局児玉教育事務所主催の研修会が「探鳥会」をテーマとして開かれ、岡安征也幹事が「野鳥を楽しむノウハウ」について、町田好一郎幹事が「探鳥会の企画から反省まで」について講義。実践編では、阪東大橋下流の利根川で探鳥会を指導。受講者たち20名はツクシガモの姿に感激していました。

●森林公園でも探鳥会の指導

1月23日（日）滑川町国営森林公園で、あ

さ銀ユニオンクレジット主催の探鳥会が、クレジット会員と家族約50人を集めて開催され、依頼を受けて当支部から海老原・榎本・岡安・内藤・福井・町田・吉原、7人の幹事が指導に当たりました。

この探鳥会のために新たに設定したコースで、初めて双眼鏡を手にした人たちも、樹間を飛びかうシジュウカラや華麗なおシドリの姿などに歓声をあげていました。

●3月の土曜日当番（2時～6時）

5日 丹茂子 海老原教子
12日 山部直喜 海老原美夫（編集会議）
19日 榎本秀和 新堂克浩（校正の日）
26日 袋づめの会（1時から）

●会員数は

2月1日現在 2,348人です。

活動報告

1月14日 あさ銀ユニオンクレジット探鳥会打ち合わせ。
1月22日 2月号校正（海老原美夫、大武昭雄、工藤洋三、桜庭勇）。
1月22日 役員会議（司会・三田長久、各部の報告・「埼玉野鳥見て歩き（仮称）」発刊計画について・その他）。
1月25日 千葉県支部に関東ブロック会議に関する連絡。
1月27日 「埼玉野鳥見て歩き」編集会議。

編集後記

2月はフクロウがよく鳴く。近年は「俺たちも住んでるゾ、生きてるゾ、ゴルフ場はもういらないゾ」と聞きなしている。（山部）

2月12日（土）。窓の外の雪がズンズン厚く重くなっている。さあ、編集作業が終わった。雪見酒だ。（海老原）

次号の編集作業時には日本にいないので、その分の原稿も届ける必要があって、雪の中をやってきました。幸い？行事報告が遅れていて2回分の原稿ができたのです。（森本）

『しらこぼと』1994年3月号（第119号） 定価 100円（会員の購読料は会費に含まれます）
発行人 松井昭吾 編集発行 日本野鳥の会埼玉県支部 TEL 048-832-4062 FAX 048-825-0460
〒336 浦和市岸町4丁目26番8号 プリムローズ岸町107号 郵便振替 東京9-121130
印刷 関東図書株式会社（本誌掲載記事の無断転載はかたくお断わりします）